

浜名湖におけるアサリ資源回復研究

(予算区分 県単 - 研究政策室 研究期間 平成15～16年度)

浜名湖分場

【研究の背景とねらい】

- ・ アサリ漁業は浜名湖内の漁業生産量の90%(2,887トン)、漁獲金額の71%(1,036百万円)を占める最も重要な漁業ですが、豊漁期には年間約8千トンあったアサリの漁獲量が、近年は2～3千トンと低迷しており、アサリ資源の回復が急務となっています。
- ・ そこで、アサリ資源の増殖につなげるため、浜名湖におけるアサリ浮遊幼生の出現状況を調査し、さらに、浮遊幼生の出現密度と稚貝の出現密度との関係を検討しました。
- ・ また、アサリ浮遊幼生の着底促進効果があると考えられる人工海草や天然アマモによる幼生の着底促進実験を行い、資源回復の方法を検討しました。

【研究成果】

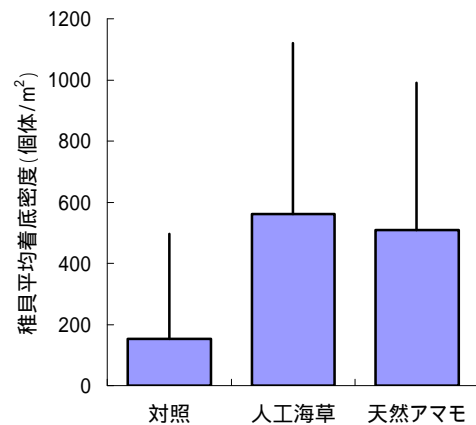
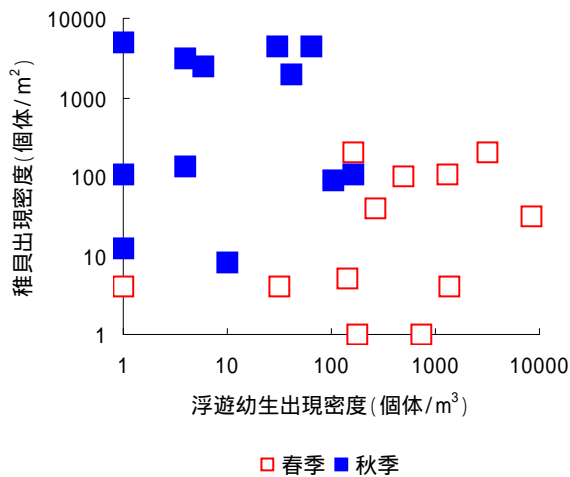
1 アサリ浮遊幼生の出現状況

浮遊幼生は場所や季節により出現密度に違いが見られ、浜名湖の南部よりも北部で、また秋よりも春に高密度で出現しました。

しかし、稚貝の出現量(殻長2mm)は春よりも秋に多く、浮遊幼生の出現密度と稚貝の出現密度には相関がみられませんでした(第1図)。

2 アサリの着底促進効果

天然アマモ場、人工海草設置漁場及び対照区において、着底稚貝(殻長0.5mm以下)の密度を比較した結果、アマモや人工海草がある方が対照区よりも着底稚貝が多く、アサリ幼生の着底促進にアマモ場や人工海草が有効であると考えられました。



第1図 浮遊幼生出現密度と稚貝現存量の関係

第2図 アサリ浮遊幼生の着底促進効果
(は標準偏差)

【研究成果の普及方法】

- ・ 従来、アマモ場はアサリの増殖を阻害すると考えられていましたが、逆にアマモ場の保全を図ることで、アサリ資源の回復が期待できると考えられました。
- ・ 幼生の着底促進に人工海草が有効であると考えられ、アサリ資源回復の有効な方法として、今後、より簡便で効率的な構造物を検討します。

(作成 平成17年3月)